



このことについては平成14年8月30日を第1回として、平成25年9月27の第6回まで、実に11年余に及ぶ長期間の運動を継続してきたものです。

宇都宮市長に面談し、旧大谷公会堂の移築、活用について従来からの要望を総括する。

旧大谷公会堂の移転について

——その七——

NPO法人 大谷石研究会
理事長 小野口順久

不可能と判断して、他の地に移築することを前提に、補償金額の見積もりを実施中とのこと。

このタイミングを捉えて先日、「旧大谷公会堂の移築、活用を推進する会（城山地区の主要な団体で構成）を代表して、理事長 小野口順久、事務局長 高橋啓子、会員の市議会議員 渡辺道仁の3名が宇都宮市長と面談して、従来からの要望の経緯と移転場所の最適地等を説明してきたところです。

栃木県の最近の行程、予定を聴取したところ、11月の中旬頃までには、旧大谷公会堂の移築補償額を策定し、登録文化財であることから本庁内関係部署との協議を経て、宇都宮市にその結果を提示するとのことでした。市は平成27年度予算に計上することは定期的に困難であり、また文化庁との十分な検討期間を経て、平成28年度に予算化を想定していると思われま。

何れにせよ、今後長期間に亘る粘り強い運動展開が余儀されるものと思料しているところです。

活動報告

第3回宇都宮市上田町地区における石蔵集落調査を9月に実施 のどかな田園風景と道路の両脇に残る用水路が、 石蔵を一層際立たせる上田町地区

NPO法人大谷石研究会は、宇都宮市より「景観整備機構」の指定を受け、石蔵集落調査活動を実施しています。第1回は徳次郎・西根地区、第2回は旧河内町上田原地区、そして第3回となる今回は宇都宮市上田町に残る石蔵を調査しました。調査は、宇都宮大学工学研究科安森研究室と協働での調査となり、結果は今後まとめて報告される予定です。

石の産地ならではのうつつのみやの街並や風景の美しさを、より多くの人に知っていただき、保存・活用へと広げることを願い調査活動を続けています。



石蔵が数棟あるお宅も目立ちます。また家の裏手には墓地がありました。

大谷石研究会メンバーと安森研究室メンバー、市の職員(2名)、うつつのみや美術館職員(2名)、大谷アカデミー(石工の養成講座に参加しているメンバー3名)、総勢24名で調査しました。

会員通信

大谷石を床に用いて土足のまま内外を移動できるシェアハウス「シェ・トワ鶴川」

NPO法人 大谷石研究会
理事 更田邦彦

昨年9月に竣工したシェアハウス「シェ・トワ 鶴川」を1年ぶりに訪問しました。小田急線鶴川駅南側の住宅地に建てられた2階建ての建物に、9室の個室が入るこのシェアハウスは、共用部の床に大谷石(厚さ20mm)やピニルタイル(階段と2F)を張ることで、各個室まで土足のまま行けるような仕様となっており、さらに、この字型の建物に囲まれたテラスや菜園にも大谷石を用いているので、1階のダイニング・キッチンに土足で出入りできることが最大の特色となっております。

訪れた日(10月26日)も秋晴れの気持ちの良い日でしたので、お住まいの皆さんは、ダイニング南側の開口を全開にして自由に内外を行き来しておりました。菜園には、各自のブロッコリーなどの野菜が育っており、月1回程度行われるピザパーティーではそれらの野菜を楽しんでいるとのこと。内外一体で楽しんでもらう空間を意図して設計し、オーナーに大谷石のピザ窯を何とか導入して頂いた私としては、住人の皆さんが思っていた以上にこの建物を使い込んでおられる様子を見て、改めてホッとするつれづれ一日となりました。

住所：神奈川県川崎市麻生区岡上
設計・監理：更田邦彦建築研究所
運営：(株)ストーンズ



菜園の様子(現在)

ダイニングから庭を見る(現在) ピザ窯のある庭(竣工時)

1階個室前の共用部(竣工時)

宇都宮美術館主催 大谷石をめぐる連続美術講座 「大谷石の来し方と行方」(全5回) が開催されました

大谷石をめぐる連続美術講座に、大谷石研究会メンバーが講師を務めました。第2回では塩田潔理事が「大谷石が生み出す魅力的なまちなみ」を、安森亮会員が「大谷石の石蔵と集落、現代の活用とデザイン」を。第3回では、佐藤公紀理事が「更田時蔵の旧・大谷公会堂」を解説しました。



NPO法人大谷石研究会のホームページ
<http://www.ooyaishi.org/>

コンテンツ盛りだくさん

大谷石研究会とは・大谷石の歴史と魅力・全国の大谷石の建造物・最近の使用例・石蔵や大谷石の活用例・大谷石の工法と保存・活動報告ブログ・会報誌(バックナンバーがダウンロードできます)

大谷石 東西南北

国内外から人を呼ぶ 兵庫・芦屋のヨドコウ迎賓館

(NPO法人 大谷石研究会広報担当 平沼 隆志)

兵庫県芦屋市、JR芦屋駅から歩いて約15分。「ライト坂」という愛称の坂を上ったところに「ヨドコウ迎賓館」がある。F・Lライトの設計で1924年に完成して、今年で満90歳。戦後は淀川製鋼所(大阪市)が所有、社長公邸、独身寮などに利用した。1974年、国が重要文化財に指定。今では、有料(大人500円)で一般公開されている。

大谷石研究会の「大谷石百選」では、最も西にある施設。外から見ても、中に入っても至る所に大谷石が使われている。来館者の寄せ書きノートを見ると、北は東北・北海道、南は沖縄、海外は英国、韓国などまさに国内外から集まっている。建築専攻の学生など設計・構造に興味を持つ人から、出会う旅の「思い出の場所」として訪れる人まで様々だ。

周辺は住宅地で、これといった観光施設はない。多くの人が、この建物を目的にわざわざ足を運ぶ。不躰な言い方で恐縮だけれど、大谷石にとっては強力な「広告塔」だ。でも、ここで大谷石に魅せられた人のうち、どれほどの人が宇都宮を意識し、足を運ぶだろうか。



独特なデザインの玄関口

暖炉にも柱にも大谷石が

F・Lライトにちなんで「ライト坂」の愛称がついた